

# 事業報告書

2018年6月1日から2019年3月31日まで

一般財団法人教育支援グローバル基金

## 1. 主要な事業の成果

一般財団法人教育支援グローバル基金は、2018年6月から2019年3月に、日本全国の高校生、大学生を対象とした人材育成事業「ビヨンドトゥモロー」を開催した。

### (1) 奨学金事業

1. **ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2018**：親との死別・離別を体験していたり、児童養護施設に暮らすなど、社会経済的に困難な状況に置かれた若者こそ、今後、人の心の痛みに想いを馳せ、世界や日本のために行動するリーダーになる資質を有しているというミッションの下、進学のための奨学金（返済不要）年間72万円を給付。2018年度の新規参加者を対象とした選考より、モルガンルイス・バッキアス法律事務所からのプロボノ協力の下、応募要件（保護者が死亡、単親家庭である、児童養護施設に暮らしている、里親家庭に暮らしている、生活保護受給世帯に暮らしている、のいずれか）を満たしていることの確認を法的書類をもって行った。
2. **エンデバー2018**：児童養護施設に暮らす日本全国の高校生を対象とし、進学準備に際する費用（センター試験受験料、入学検定料など）を年間上限10万円の給付型の奨学金として支給する事業を実施した。

※上記2事業の実施以外に、2019年度の奨学金事業の告知・選考活動を2018年度に行った。

### (2) リーダーシッププログラム事業

#### a. エンデバー サマーリトリート 2018 2018年8月2日～8月6日（東京都・三重県）

1年間に渡る奨学金事業「エンデバー2018」に参加している高校生および卒業生たちが集い、「子どもの安心・安全」の実現のために自分たちに何ができるのかを考え、新たな提言の形にまとめて発信した。特に、児童養護施設に暮らす子どもたちが、生育環境における制約に縛られることなく、主体的に自分たちの将来を考えるために必要な施策を考えた。プログラム期間中には厚生労働省にて、子どもの貧困に関心を持つ有識者たちの前で提言発表を行い、メディアにも広くとりあげられた。他には、三重県庁との共催でシンポジウムを開催した他、三重県の児童養護施設に暮らす高校生たちを対象としてワークショップの企画・運営したり、三重県大紀町にてアウトドア・アクティビティを行った。

#### b. 夏季グローバル研修 米国サマープログラム 2018 ～村瀬二郎記念奨学事業～ 2018年8月12日～24日（東京都／事前研修・米国）

日本全国から、広く世界に活躍するリーダーとなる志を持ちながらも、グローバルな経験を積む機会が限られている環境にある学生16名がワシントンDC・ニューヨークを訪問し、米国の歴史や文化、社会について学んだ。また、各都市で活躍するリーダーたちとの交流を通し、日本の現状をアメリカの人々に伝えるアンバサダーとしての役割も果たすことができた。渡米前には、東京で事前研修を行い、米国大使館を訪問したり、英語でのプレゼンテーションを練習するワークショップを開催した。ワシントンDCでは、ホワイトハウスや連邦議会、世界銀行やCouncil on Foreign Relationsを訪問し、特別セッションに参加した他、参加学生が日本

料理や文化を紹介する「ジャパン・ナイト」を企画し、海外の人々との交流の機会をもった。ニューヨークでは9.11のテロの犠牲者の家族や友人たちとの交流や、ホストファミリーと1日を過ごす交流活動に加え、子ども支援に取り組む国際機関や民間団体を訪問した。そしてプログラム最終日、参加学生たちがアメリカで学んだことを、今後いかに活かしていくかをプレゼンテーションにまとめ、英語で関係者たちの前で発表した。本プログラムは、日米両国の架け橋として活躍された故村瀬二郎氏のご遺志を継ぎ、日米交流の担い手となる若者がアメリカの空気に触れ、多くのアメリカ人に会い、米国社会について学ぶことを目的とした「村瀬二郎記念奨学事業」として開催した。

**c. アジアサマー・プログラム 2018 2018年8月28日～9月12日（東京都／事前研修・タイ・シンガポール）**

広く世界に活躍するリーダーとなる志を持ちながらも、グローバルな経験を積む機会が限られている環境にある学生7名がタイとシンガポールを訪問し、バンコクやシンガポールの著しい経済成長を体感する一方で、タイ北部の山岳地でのボランティア活動に参加し、少数民族の生活について学ぶためのフィールドワークを行った。東京での事前研修の後、タイの首都を訪問し、アジアの経済成長について学ぶべく、政府機関や国際機関を訪問した。その後、タイ北部を訪問し、山岳民族の進学を支援するための学生寮や、孤児院でボランティア体験に参加したり、山岳民族の家庭でのホームステイを体験した。最後に、シンガポールを訪れ、プログラムを通して学んだアジアの課題を解決するために何ができるかを考え、提言にまとめ、プログラムの最後にその提言を学生たちが発表するセッションを開催した。一連の活動を通して、参加者たちは経済成長を遂げるアジアの国々の様々な側面についての理解を深め、多様な人々が構成する社会がよりよい場所となるために自分に何ができるかを考える機会を得た。

**d. ジャパン未来リーダーズサミット 2018 2018年10月6日～8日（東京都）**

親との死別・離別や、児童養護施設で生活しているなど、様々な事情により機会を得ることが難しい状況にありながらも、広く社会のために役立つ人材となる志をもつ全国の高中生・大学生を対象に、本サミットでは、多様な領域で活躍するリーダーたちによるアドバイスの下、「子どもの安心・安全の実現のために」をテーマに、提言をグループ毎にまとめ、最終日には政治・行政・ビジネス・メディア・NGOなど各方面のリーダーたちの前で発表する機会を提供。「体験共有」「スピーカーセッション」「ディスカッション」「提言作成」など様々なモジュールを通じて、幅広い領域で活躍するリーダーたちによるアドバイスの下、子どもの安心・安全の実現について提言をまとめ、最終日の閉会式で発表した。閉会式における提言発表を審査委員が評価し、優勝に選ばれたチームが、後日、加藤勝信衆議院議員及び小泉進次郎衆議院議員を訪問し、プレゼンテーションを行った。

**e. エンデバー2018 クロージング・プログラム 2019年3月10日～13日（沖縄県）**

1年間にわたる奨学金事業「エンデバー2018」に参加した学生たちが、一年間のプログラムの集大成となる「クロージング・プログラム」に参加し、3泊4日の研修プログラムに臨んだ。沖縄で開催したクロージング・プログラムでは、年間の活動を総括し、今後、一人ひとりがどのような道を歩いていくかを描き、自らの手で未来を切り開くきっかけを得るためのディスカッションやプレゼンテーション作成の機会を設けた。また、沖縄を取り巻く様々な課題について多角的に理解を深める他、自然や文化に触れ、沖縄という地の魅力を知る機会を提供する活動も行った。児童養護施設に暮らす高校生たちが、高校卒業後の進路をみすえて、前進する姿を発信するエンデバーの1年間の活動の総括となった。

**f. ビヨンドトゥモロー 3月オリエンテーション・プログラム 2019 2019年3月17日～20日（東京都）**

ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2018 及び 2019 参加者、及びエンデバー2019 参加者が集まり、ビヨンドトゥモローについての理解を深め、仲間たちとの信頼を築き、今後の1年間、自分たちが何をしたいかを考える機会を提供。「子どもたちのSOSをいかに社会につなげるか」をテーマに、自分たちのこれまで

の体験に基づいた、子どもの置かれた状況の課題や、今後、自分たちが学びを深めたい事柄についてチームごとにディスカッションを行い、プレゼンテーションにまとめた。まとめた成果は、支援者・協力者など関係者たちが集まった「提言発表会」にてチームごとに発表した。その他、子ども食堂でのボランティア、キャリア構築をテーマとした夕食会、外国人留学生とのセッションなど、様々な活動を通して、視野を広げ、また、仲間たちとの絆を構築する機会を提供した。

2. 主要な事業の実施状況  
(年間奨学事業)

事業名	対象者	選抜方法	参加者 人数	内容	支出額 (円)
ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2018	2018年度に、大学・短大・専門学校に新たに進学する者及び、前年度に「ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2017」に参加していた者。	1次選考：書類審査（課題作文） 2次選考：面接審査（グループディスカッション）	23名	年間 72 万円の給付型奨学金の支給及び、年間約 4 回の人材育成プログラムへの参加	8,417,007
ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2019	2019年度に、大学・短大・専門学校に新たに進学する者で、及び、下記条件のいずれかを満たす者。 ・保護者が死亡 ・単親家庭である ・児童養護施設に暮らしている ・里親家庭に暮らしている ・生活保護受給世帯に暮らしている		13名	年間 50 万円の給付型奨学金の支給及び、年間約 4 回の人材育成プログラムへの参加	3,159,929
ジャパン未来フェローシップ・プログラム 2019	前年度に「ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2018」に参加していた者。		10名	年間約 4 回の人材育成プログラムへの参加、年間を通じたキャリアサポート、インターンシップへの参加	3,960
エンデバー2018	児童養護施設に暮らす高校生(2018年度に2年次、3年次に在籍)で、高校卒業後に進学を志す者。	1次選考：書類審査（課題作文） 2次選考：本人及び施設長との面接	6名	年間 10 万円（上限）の給付型奨学金の支給（高校3年生のみ）及び年間約 4 回の人材育成プログラムへの参加	1,309,012
エンデバー2019	児童養護施設に暮らす高校生(2019年度に2年次、3年次に在籍)で、高校卒業後に進学を志す者。		6名		579,957

## (リーダーシッププログラム事業)

事業名	日時	開催場所	対象者	人数	内容	支出額 (円)
エンデバー サマーリトリート 2018	2018年8月2日 ～8月6日	東京都・三重県	エンデバー2018 参加者及び エンデバー卒業生	8名	「子どもの安心・安全」の実現のために自分たちに何ができるのかを考え、提言の形にまとめて発信する他、ワークショップ開催、会うと度アクティビティなど。	924,719
米国サマープログラム 2018	2018年8月12日 ～24日	東京都／事前研修・米国	ジャパン未来スカラシップ 2018 参加者	16名	社会的困難な状況にある大学生 15名が米国を訪問し、グローバルな視野を養う活動に参画。ワシントンDC、NYを訪問し、アメリカの歴史や文化、社会について学ぶ。	8,175,643
アジアサマー・プログラム 2018	2018年8月28日 ～9月12日	東京都／事前研修・タイ・シンガポール	ジャパン未来スカラシップ 2018 参加者	7名	社会的困難な状況にある大学7名がタイとシンガポールを訪問し、バンコクやシンガポールの著しい経済成長を体感する一方で、タイ北部の山岳地でのボランティア活動に参加し、少数民族の生活について学ぶ。	2,777,136
ジャパン未来リーダーズサミット 2018	2018年10月6日 ～8日	東京都	ジャパン未来スカラシップ 2018 参加者、エンデバー 2018 参加者、新規応募の高校生	65名	親との死別・離別や、児童養護施設で生活しているなど、様々な事情により機会を得ることが難しい状況にある高校生・大学生を対象に、多様な領域で活躍するリーダーたちによるアドバイスの下、提言をグループ毎にまとめ、閉会式で発表する機会を提供。	6,054,514
エンデバー2018 クロージング・プログラム	2019年3月10日 ～13日	沖縄県	エンデバー2018 在籍者	6名	1年間にわたる奨学金事業「エンデバー2018」に参加した学生たちが、一年間のプログラムの集大成となる「クロージング・プログラム」に参加し、年間の活動を総括し、今後、一人ひとりがどのような道を歩い	547,637

					ていくかを描き、自らの手で未来を切り開くきっかけを得るためのディスカッションを開催。	
3月オリエンテーションプログラム 2019	2019年3月17日 ～20日	東京都	ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2018 及び 2019 参加者、ジャパン未来フェローシップ・プログラム 2019 及びエンデバー2019 参加者	38名	ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2018 及び 2019 参加者、ジャパン未来フェローシップ・プログラム 2019 及びエンデバー2019 参加者が集まり、ビヨンドトゥモローについての理解を深め、仲間たちとの信頼を築き、今後の1年間、自分たちが何をしたいかを考える機会を提供。	861,615

注記

当法人は2018年6月1日以後開始する事業年度の決算日を5月31日から3月31日に変更しています。よって、当事業年度は2018年6月1日から2019年3月31日までの10ヶ月間となります。

以上